

## はじめに

本書は、町の現状に即した環境資源情報の更新を図るとともに、生物多様性保全の観点から環境資源目録の見直しを目的として、町に存在する環境資源の分布及びその適正な利活用に資するための配慮事項について調査、検討した結果をまとめたものです。

町は、平成 11 年度において、本町内の動植物、自然、景観、文化財等の分布を「環境資源目録 平成 12 年 3 月」にまとめています。町ではこの環境資源目録を地域環境との調和を図り、良好な環境を守るための資料と位置づけ、有効に利用されることを促してきました。平成 18 年度住民意識調査結果によると、まちの印象として「緑が残された自然環境のよいまち」が 2 位に挙げられており、また、住み続けたい理由として「緑や田園が多く自然環境がよい」が 3 位に挙げられています。長久手町において、自然や緑は町民の期待が非常に大きい環境要素であり、重要な資源ということができます。

一方、自然環境を中心とした環境保全の流れは、生態系から受ける様々な恩恵や価値が改めて見直されるなか、生物多様性や生態系が健全に維持されることが世界規模での重要課題として位置づけられ、各国が力を合わせこれらの保全に向けた努力がなされようとしています。加えて、平成 22 年 10 月には生物多様性条約締約国会議（COP10）が名古屋市で開催され、本町においても愛・地球博記念公園に関連事業会場が設置されるなど重要な役割を担う予定です。

こうした背景を踏まえ、今回の見直しは、前回目録作成から 10 年が経過し、町の環境資源の現状についても変化が予想されるなかで、平成 22 年度に予定している環境基本計画の改訂に向けた現状把握のための一環として位置づけ実施しました。

# 目次

## はじめに

1	長久手町環境資源目録の見直し	1
(1)	環境資源とは	1
(2)	環境資源目録の見直しとその手順	5
(3)	調査方法	6
2	長久手町の環境概況	8
(1)	地形・地質	8
(2)	動植物	11
(3)	水質	12
3	長久手町の環境資源	14
3-1	学術的価値の高い環境資源	14
(1)	特徴的な地形・地質資源	14
(2)	希少植物資源	15
(3)	希少動物資源	20
(4)	多様性を有する生態系資源	26
3-2	日常生活における環境要素として価値が高い環境資源	30
(1)	良好な景観資源	30
(2)	親しみ学ぶための環境資源	34
4	利活用に向けて	40
(1)	正確な情報に基づく現況把握	40
(2)	里山管理などへの適切な人為介入	41
(3)	脆弱な自然環境の適切な管理	41
(4)	外来種・移入種の進入防止や駆除	42
(5)	水質・大気質の保全	42
5	まとめ	44
	用語解説	47